

(9) 四国



四国地域では、景気は緩やかな回復基調が続いているが、一部に弱さがみられる。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、このところ足踏みがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

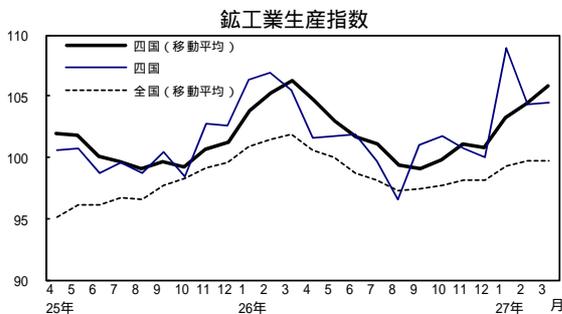
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 27 年 2 月)	今回 (平成 27 年 5 月)
景況判断	緩やかな回復基調が続いているが、このところ弱さ	緩やかな回復基調が続いているが、一部に弱さ
鉱工業生産	おおむね横ばい	持ち直しの動き
雇用情勢	改善	着実に改善
住宅建設	大幅に減少	減少

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。

1～3月期には、化学は、カプロラクタム等で増加した。電気機械は、需要が好調なことから蓄電池等で増加した。はん用・生産用機械は、納期のタイミング要因により金属工作・加工機械等で増加した。非鉄金属は、電気銅等で減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		10～12 月期	1～3 月期	1月	2月	3月
化学	22.9	13.6	1.0	19.1	11.3	3.7
電気機械	15.8	2.1	7.4	9.7	3.6	0.2
食料品	10.5	0.2	8.5	2.7	13.7	5.4
はん用・生産用機械	10.0	1.4	12.7	24.2	23.3	6.5
非鉄金属	8.0	1.8	1.2	6.3	6.2	3.1
鉱工業	100.0	1.7	5.1	8.9	4.2	0.2

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

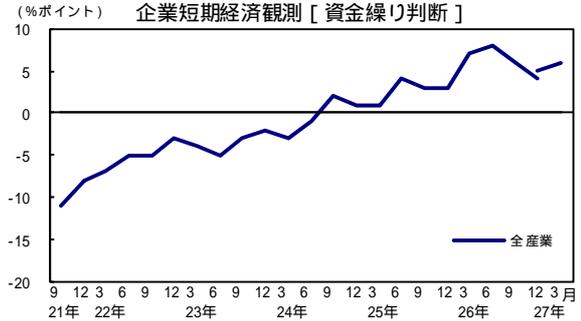
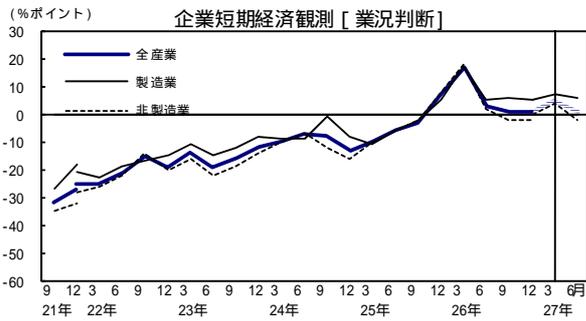
2. 1～3月期、3月は速報値。

(備考) 1. 22年=100、季節調整値、四国の最新月は速報値。

2. 全国及び四国の太線は後方3か月移動平均。

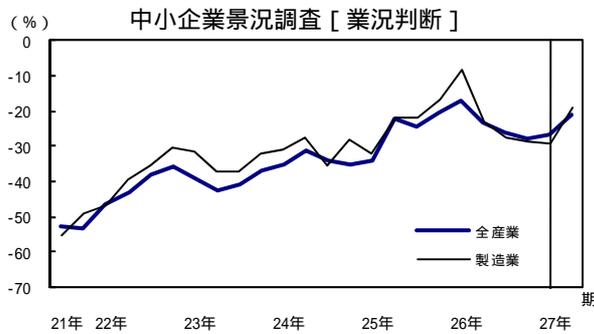
(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。27年6月は予測。
21年12月及び26年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
21年12月及び26年12月は新・旧基準を併記。

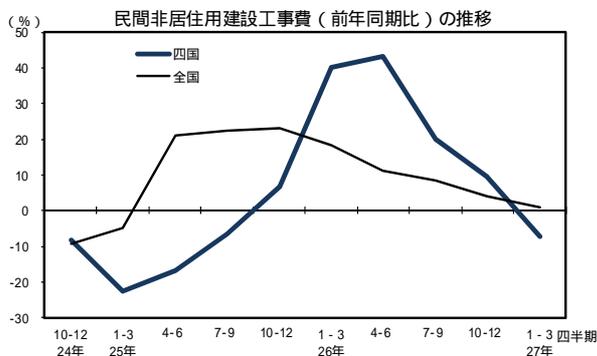


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。27年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

「3か月前の販売量と比べ、海外向けが微増(電気機械器具製造業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は減少している。



企業短期経済観測調査[設備投資(3月調査)]

(前年度比、%)

	26年度実績見込み	27年度計画
全産業	14.0(10.2)	4.9
製造業	41.8(19.7)	9.3
非製造業	11.3(1.1)	1.5

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、このところ足踏みがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

1月は前月比0.6%減、2月は同2.0%増、3月は同0.4%増となった。

大型小売店販売額

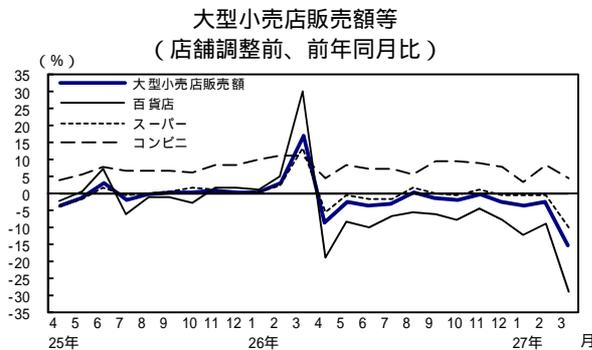
百貨店は、1月は、衣料品が冬物セールで苦戦したことに加え、美術品や婦人靴が低調であったことなどから前年を下回った。2月は、衣料品が店舗数の減少した影響や婦人服が低調であったことに加え、高額商品が前年に好調であったことの反動などから前年を下回った。3月は、前年に比べ土・日・祝休日の数が2日少なかったことに加え、昨年的好調の反動により衣料品が低調であったことなどから前年を下回った。

スーパーは、消費税率引上げに伴う駆け込み需要があった洗剤など日用消耗品が低調であったことから前年を下回った。

景気ウォッチャー調査 (4月) [家計動向関連 (現状)]

四国地域の家計動向関連DIは、49.6となり前月と比べ横ばいとなった。

「昨年より景気は少し上向きで、来場者数も若干増えているが、販売量に増加の傾向が見られないまま年度末を迎え、4月は前年並みに落ち着いた (乗用車販売店)」など、「変わらない」とする回答が減少した。

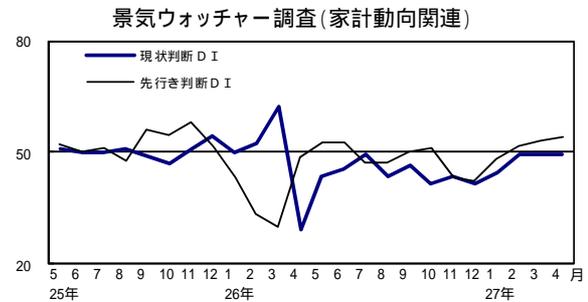
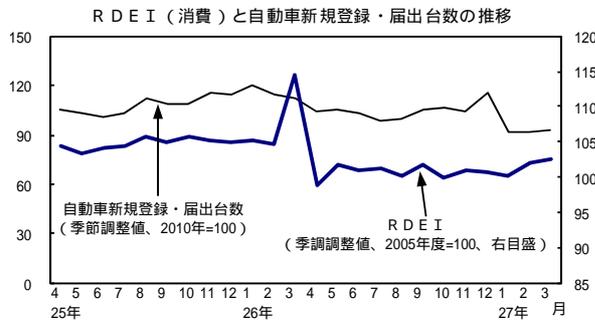


	27年1-3月	27年1月	2月	3月
RDEI (消費*1)	1.0	0.6	2.0	0.4
大型小売店(*2)	7.6	3.6	2.3	15.2
百貨店(*2)	18.0	12.0	8.8	28.8
スーパー(*2)	4.1	0.7	0.4	10.1
コンビニ(*2)	5.6	3.7	8.5	4.8
乗用車(*3)	18.6	22.6	18.6	16.0
(季節調整値)(*3)	14.9	19.8	0.1	0.8

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

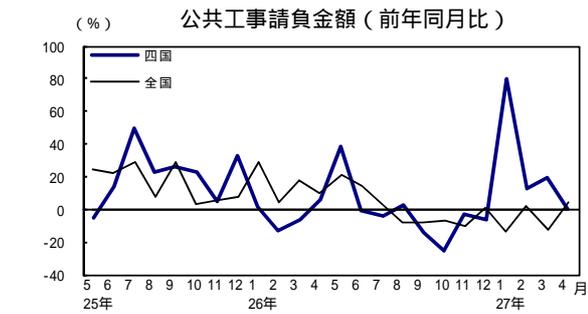
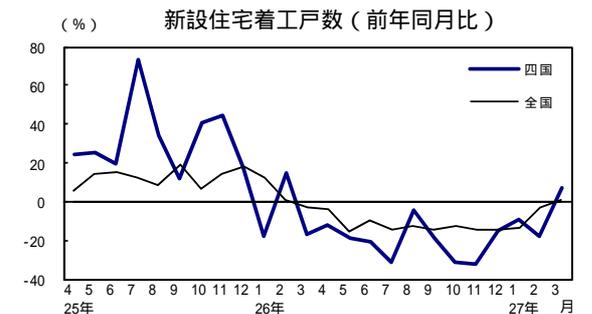
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比 (%))



(2) 住宅建設は減少している。

分譲が前年を上回ったものの持家、貸家を下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は26年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

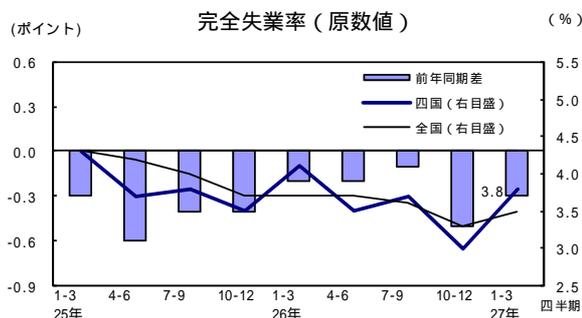
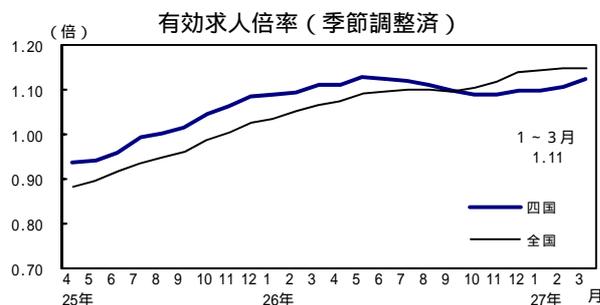


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (4月)[雇用関連(現状)]

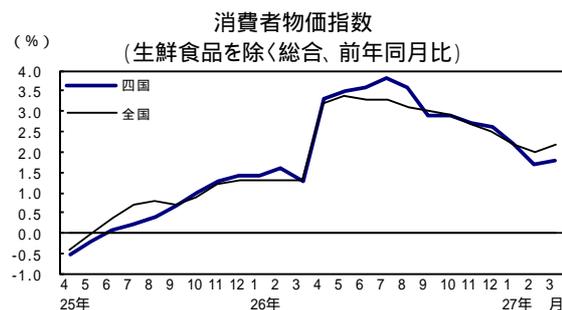
「県内企業は来年度の新卒採用PRに注力している。新たに新卒採用を開始する企業も増えてきており、例年以上の採用数が見込まれる。好況を反映して、受注増に対応するために増員するケースが多い(求人情報誌)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。

(3) 消費者物価指数は、前年比の上昇幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	26年4-6月	7-9月	10-12月	27年1-3月	27年4月
倒産件数	58	48	44	57	11
(前年比)	9.4	9.1	25.7	16.3	47.6
負債総額	164	159	59	141	17
(前年比)	33.0	128.5	38.9	16.6	42.8



景気ウォッチャー調査 (4月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

- 天候不順により4月前半の客数は伸び悩んだものの、観光客やファミリー層の動きは活発で、週末を中心に人出は多い。レジャーやイベントへの関心が高く、消費マインド全般も高まっているようだ。一方、一般消費の動きは鈍く、財布のひもは依然として固い(商店街)

<先行き>

- 株高や賃金の上昇と、ガソリン・灯油の値下がりが続いているので、そろそろ消費が上向くのではないかと期待している(住関連専門店)

